

動物咬傷

動物の口腔内には雑菌が多く存在しています。また、牙による創は入り口が狭く奥に深いために、汚染物質が外に排出されにくく創内にとどまりやすくなっています。このため動物にかまれると創が化膿（感染）しやすく、広範囲に感染・炎症が波及（蜂窩織炎）することも稀ではありません。入院が必要になる場合もあります。傷口が小さいと軽んじられやすいのですが、なかなか厄介な外傷です。

犬による咬傷

咬む力が強く、組織のダメージが大きかったり、組織自体がかみ切られてしまうこともあります。国内でかまれた場合には狂犬病の危険はないといわれています。（国外でかまれた場合は迅速に申し出て下さい）

猫による咬傷

犬よりも感染の危険が大きく、重症化しやすいといわれます。これは猫の口腔内に雑菌が多く認められること、牙が細いことが原因とされます。発熱している場合などは全身の感染症 一猫ひっかき病一 にも注意が必要です。

その他、人（最も感染しやすい）、蛇（毒蛇は緊急性あり）、魚（骨が刺さった場合も同様）、くらげ、昆虫など

動物には手をかまれることが多いのですが、臆などを伝わって感染が波及しやすいため、手を使わずに安静にしていることが望ましいです。このため固定を要することもあります。

《基本的な治療方法》

- ・ 創をきれいに（洗浄、消毒、汚染部の切除など）します
- ・ 場合によっては内部に膿がたまらないように創の入り口を切開し膿の出口を確保します。
- ・ 基本的には縫合しませんが、変形が強く残るような場合には例外的に縫合することもあります。しかし、感染の兆候が見られたら早めに抜糸します。
- ・ 抗生剤を投与します（内服または点滴）。
- ・ 破傷風の予防注射をします。

患部の安静が保てるようにします（包帯や副木など）。患肢は挙上して下さい。

創が落ち着くまでは通院が必要となります。受傷直後に症状がなくても、しばらくして感染が悪化することも多くあります。

受傷したら、まず水道水で十分に傷を洗浄し、医療施設を受診して下さい。